

## G20エネルギー効率リーディング・プログラム（EELP） （要旨）

### 1. 概要：

- （1）省エネはG20の優先課題。G20は、世界エネルギー消費の8割以上を占めており、継続的な省エネ努力は、エネルギー・アクセス改善にとって、重要な役割を担う。
- （2）「G20エネルギー効率リーディング・プログラム」は、G20が省エネに関し自主的な行動を強化するための基礎的な枠組みであり、長期的、包括的、柔軟、十分なリソース活用を重視。
- （3）2014年のG20エネルギー大臣会合で採択された、「G20省エネルギー行動計画（EEAP）」においては、①車両、②製品、③ファイナンス、④建築、⑤産業、⑥発電の6分野を優先活動項目と設定。今回の「G20エネルギー効率リーディング・プログラム（EELP）」においては、上記6分野に加え、新たな5分野として、⑦利用可能な最善の技術及び実践（TOP TENSs）、⑧超効率機器の普及（SEAD）、⑨地域エネルギーシステム（DES）、⑩エネルギー効率の知識共有に関する枠組み、⑪エネルギーの最終利用データ及び省エネ測定基準を設定。

### 2. 11分野の協力：

各国は自主的に以下の分野に参加し、長期的な視点の下、省エネ協力を行う。

- ①車両（米国主導）：大型車等の燃費改善や環境面の影響低減に向け、自主的取組や経験共有を推進。
- ②製品（英国、国際エネルギー機関（IEA）主導）：ネットワーク機器の省エネを推進するため、自主的な原則策定等の協力を実施。
- ③ファイナンス（フランス、メキシコ主導）：省エネ投資を促すため、自主的省エネ投資原則の策定や、政策オプションを検討。
- ④建築（米国、豪州主導）：ビルの省エネを促すための評価指標の検討や、データ整備の取組を実施。
- ⑤産業（米国、日本、中国主導）：中小企業等に対する省エネ技術の普及に関するワークショップ開催等。
- ⑥発電（日本主導）：温室効果ガスの排出削減に資する高効率低排出発電技術への理解促進のため、ワークショップやサイトツアー等を実施。
- ⑦超効率機器の普及（SEAD）（米国主導）：照明の省エネへの意識向上、省エネ製品購入のインセンティブの取組等を共有。
- ⑧利用可能な最善の技術及び実践（TOP TENSs）（中国、豪州、国際省エネパートナーシップ（IPEEC）主導）：利用可能な最善の省エネ技術等に関するデータベース整備や情報共有等で協力。
- ⑨地域エネルギーシステム（DES）（サウジアラビア主導）：地域冷暖房の普及を通じた省エネ推進のため、戦略作り等。
- ⑩エネルギー効率の知識共有に関する枠組み（サウジアラビア主導）：省エネ政策の知識共有のための枠組み作り。
- ⑪エネルギーの最終利用データ及び省エネ測定基準（フランス、IEA主導）：住宅、運輸、商業等様々な分野における省エネを促進するための知見共有。